

研究視察おつかれさまでした！

1日の流れ

①朝の登校→来て準備ができた児童から朝活動という「掃除のような時間」

※掃除場所が決まっているわけではない

※自主的な活動になるよう、「朝活動ボード」があり、活動前に名前があるマグネットを移動させてから活動に向かう。（三角巾をしている子が掃除している子）



②くらしの時間

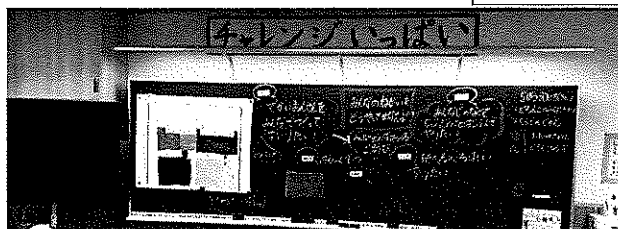
みんなに話したいことがある子が手を挙げて発言
それ以外の子は話さない

→その子の発言をもとに話題を広げる

→結構自由な感じで立ち歩く、先生に抱きつく等もある。床に寝そべる子もいる。真逆に、手遊びしていたらそのものを黙って取り上げられたり、机がまっすぐになっていなかったら指導されていたりするなど、クラスにより様子は様々



福富先生より



活動前の板書は、だいたいみんなこんな感じ。一人の児童が、どろんこ広場に温泉をつくりたいと言ったことから調整しつつ活動に入ったところ。



中西先生より

○くらしの時間

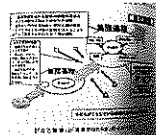
・個人が楽しかったことや嬉しかったことをはなしていた。その話が生活科や総合にもつながっているそう。話している子にとっては、自由に思いを表現する良い場となっているが、それ以外の子にとっては退屈な時間が続いているように思えた。

○生活科の授業

- ・児童と同じ目線で話を聞いているのがよかった。
- ・子ども達の意見に、「なんで?」「どうして?」と切り込むことが大切。
- ・周りの児童が「いいと思います。」と反応した際に、「なんでいいと思ったの?」と切り込むことで、学級全体を巻き込んでいく。
- ・ゴールに向かって、みんなで同じ方法をするのではなく、それぞれが思考して自分なりの方法でゴールを目指していく。
- ・振り返りをいきなり書かせるのとあまり書けないが、会話をすると話せるのでそのあとで書かせても良い。
- ・だれがどんな学び方をしているのかを、写真や動画で全体に伝え、選択肢を増やすことも大切。
- ・振り返りを書かせる際に、「したこと」「みつけたこと」ばかりではなく、「びっくりしたこと」「不思議だと思ったこと」など、心の動きを書けるように。
- ・学び方の掲示物・・・良い発見があってもそれを表現したり深めたりする方法が分からないと困る。学び方の選択肢を増やすため、追求のためのアイテムとして示す。
- ・活動の前後の違い・・・活動前はフワフワした様子の児童だったが、活動を終えて教室に戻ってきた児童の様子はいきいきとしていた。活動や体験はやはり重要である。
- ・教師が枠を作ってそこに当てはめようとするのではなく、子供の思いや願いから、それを沸かせるようにする。
- ・子供の使う言葉をなるべく変えない。→子どもの考えが少しずつずれてしまう。
- ・何度も同じところへ行くことの良さ→更なる発見

生活科の授業の流れについて

「ひとり学習」に充実を図るため「集団過程」という探究の4過程的なグルグルを意識して単元構想がある。



授業は、2時間連続でされるものもあった。

①一人の子の思いや今考えていることを発言

②一人の子の思いから、全体（集団過程?）が活動する内容を共通化する。

③活動自体は、個人のため、「めあてボード」に、毎回めあてを貼ってから各々出発。（決められた時間に帰ってくる）（クロームブックで撮影しても良い）

④帰ってきたら、発見したことなどを何種類かある見つけたよカードに記入。特に交流などはしない。

⑤最後に振り返りをして終わり。



午後からのシンポジウム・藤井先生、奈須先生の講義より（藤井先生）

- ・堀川の子の自己実現のためには、周囲の聞き合い、話し合い活動のような集団過程が大事
- ・「聞く」とは、友達の話をしっかり聞いて、つぶやく
- ・そのためには、教師は、話し手に考えが行きがちだが、聞き方のモデルになるような姿勢で→学習とは、友達との関わり合いを学ぶこと
- ・子どもがやりたいことを徹底してやらせてあげる。それに大人が徹底的に付き合っていく。それが、大人としての大きさであり信頼（奈須先生）
- ・人間と人間が生きているのだから、色々な親がいて大変だけど、学校ぐらい教師と子どもが人間らしくぶつかって、感情をむき出しにしていこうよ！
- ・その子の世界観、他の子の世界観が会ってそれが教材になる。
- ・わからなくて悔しい!!という感情がほしいな。
- ・教育は多様化、それでいい。個別がいいとか学び合いがダメとかそういうのはない。いろんなやり方でいいからまず、自分の技を極めよう！極めた人はその苦労を知っているから、ほかのやり方の文句は言わないよ。中教審答申は、「そのやり方で生きなさい。」と言っているわけではない。あなた（その学校、その市町村）にしかない授業をやるんだよ。そしていいと思ったら、ほかのことも試してみて。やり方が違っても結局は「授業」なんだから。

聞いたことをどう生かすか

6月4日は、5月30日に富山県の堀川小学校の授業実践の視察に行った福富先生、中西先生から早くも視察の報告をしていただきました。当然実際に観た方がイメージは湧きやすいのですが、報告にあった「振り返りをする」と、「環境を整えること」などは、今までから大切にしようとしてきたことです。また、「極めようとする」ことは実践においても常に重要です。本校の研究は頭にいれながら、目の前の子どもたちの成長につながることを多様な方法で実践していきましょう！！